

常陸大宮市第1号の青年  
海外協力隊員として活動  
中の石塚幹子さんから  
便りが届きました

# コスタリカ から

# Hola!

オラ



コスタリカ共和国の言語はスペイン語。Holaは「こんにちは」の意味です。



▲ボカシ肥料。完成後にみんなで記念撮影



▲ひらがなの「き」を書いてくれた児童



▲学校菜園に使う竹をみんなで運ぶ様子



▲活動地域のごみ埋め立て場の様子

常陸大宮市の皆さんこんにちは。今回は、小学校菜園の進捗状況と私が直面している問題についてお話をします。

先日、ある小学校で5年生の児童とボカシ肥料を作りました。材料調達は児童たちが行ってくれたため、順調に実習を終えることができほっとしています。もっと作りたいと子どもたちはやる気満々です。

また、地域資源を活用する目的で、「ヒカロ」という木の実で植物プランターを作り、みんなで絵を描いたり色を塗ったりしました。ヒカロは種類によっては人の顔よりも大きな実を付けます。そしてヒョウタンのように容器として使えるのです。児童たちは自分のプランターに、花や鳥、不思議な模様や国旗など、思い思いに描いていました。この小学校は図工の時間がないため、児童たちは喜んでくれたようです。上級生は進んで下級生に絵の具の使い方を指導していて、微笑ましいものでした。ですが、後片付けのできない子が多かったことには少し困りました。また、ごみをその辺に捨てても何も感じない子もいます。ごみ箱に捨てる習慣が日本人と比べると、あまりないようです。

コスタリカには、ごみ焼却施設がありません。首都にリサイクルセンターはありますが、そのリサイクル量も微々たるものです。その他の地域では、分別せずにすべて埋め立てをしているのが現状です。

私の活動する地域の小学校は、ごみ収集車も通らないため、ごみは小学校で埋める、または焼いています。そのため、菜園作りで土を掘ると、菓子袋、ガラス、布などあらゆるものが出てきます。最初は衝撃的で言葉が出ませんでした。

他にも、コスタリカの人々はのんびりしている方が多いので苦戦しています。予定していた保護者との会議や約束ごとが頻繁になくなります。人々は時間を過ぎてからぱらぱらと集まり出します。自分の価値観と彼らの価値観がすれ違うこともあります。その度に苛立ち、悲しむこともありました。しかし、そんな時は笑ってめげないことが一番です。私の方でも会議の内容に興味深いものにする、事前に電話や訪問をして何度も確認する、信頼関係を構築することで、ある程度は改善されてきました。ですが、対策をしてもなかなか思うようにはいきません。それでも憎めないのがこの国の人たちです。彼らにもいろいろと理由があるのです。

これまでの活動は、順調に進むかと思えば、問題が生じるという繰り返しでした。菜園を作りたい学校はたくさんあります。ただ、作りたいという気持ちだけでなく、行動が伴うかが課題です。問題はたくさんありますが、この地域での活動にやりがいを感じていますし、人々の素直さには心を打たれます。活動期間は残すところ約半年となりました。時の流れの速さに焦りも抱いていて、一日一日が大切な今日この頃です。